

はじめての 万葉集

[vol.36]

日本に現存する最古の
和歌集『万葉集』を
わかりやすくご紹介します。

いは
石ばしる 垂水の上のさ蕨の
萌え出づる春になりにけるかも
たるみ
さ蕨の
うへ
志貴皇子
わらび
卷八 一四一八番歌

訳

岩の上をほとばしる滝のほとりのさ蕨が萌え出る春に、ああなたつたことだ。

わえない高級品といえます。

この歌の題には「志貴皇子の權び

の御歌」とあります。「權」という文

字は、平安時代の辞書である『類聚

名義抄』にヨロコフとよまれていて、

春の到来を喜ぶ歌であつたとみられ

ます。歌を詠んだ時の状況はよく

分かっていませんが、新春を祝う宴

席で詠まれたのではないかともいわ

れています。

この歌は、そんな春の訪れを祝福

するような歌です。滝のほとりでワラビを見つけ、ああ、もう春になつたんだなあ、と実感し感動したようです。

ワラビはシダ植物の一種で、まだ葉が開く前の若芽を摘んで、春の山菜として食用にします。わらびもちは、もともとはワラビの根から採ったデンブンで作ったことからその名が付きました。ただし、ワラビのデンブンは精製に手間がかかり原料も少ないとから、現代では本ワラビ粉を使ったわらびもちはなかなか味

時代背景も影響を及ぼしていたのかかもしれません。

※「かすがのみやにあめのしたしらしめししすめらみ」とと読みます

(本文 万葉文化館 井上さやか)

若草山は全体が芝生で覆われており、三つの笠を重ねたようなので三笠山ともいいます。桜の名所としても有名で、4月になるとソメイヨシノやヤマザクラが咲き誇り、春の訪れを感じさせてくれます。冬季は閉山していますが、毎年3月第3土曜日から開山されますので、穏やかなこの季節、ぜひ足を運んでみませんか。

(要入山料)

春の若草山



問 県奈良公園事務所 ☎ 0742-22-0375

問 県広報広聴課 ☎ 0742-27-8326 FAX 0742-22-6904



万葉ちゃん